



<発行>

東日本高速道路株式会社
関東支社 横浜工事事務所

よこかんみなみ

vol.19

<http://www.yokokan-minami.com>

よこかんみなみ

検索

4月から公田IC予定地で開始した、地下水に関する現地試験が順調に進んでいます。

公田IC予定地では、建設工事で地面を掘り下げる時の地下水の変化が、周辺地盤にできるだけ影響を与えないようにする工法が可能かどうか、現地に井戸を掘って試験を行っています。

公田ICの工事は、事前の土質調査の結果から、ポンプでいったん汲み上げた地下水を周辺地盤に戻す「リチャージ(復水)工法」の採用を予定しており、この試験は、覆水の方法を具体化するために、地質や水の通りやすさ、地下水の性質などを調べるものです。

現在は、1カ所の井戸で現地試験を終えところで、さらにもう1カ所の井戸で同様の試験を行います。その後、記録したデータを解析して工法の適用性を確認し、復水を行う井戸の配置など、詳細な工事計画を検討していきます。



▲中央の太い管が試験用の井戸。ここから地下に注水し、奥に並んだ3本の細い管で、地下水位の変化を調査します

◀注水量を管理し、地下水位の変化をパソコンに記録しています

「よこかんみなみ エコ体験会」を開催。笠間小学校の子どもたち125名に、苗木を植えてもらいました。



▲子どもたちと先生、社員が一緒になって作業し、何もなかった事業用地が、次第に緑でいっぱい

6月16日、横浜市立笠間小学校の4年生125名の子どもたちに、苗木の植樹を体験してもらいました。

今回の植樹は、昨年からスタートした横浜環状南線を緑化する取り組み

【グリーンプロジェクトよこかんみなみ】の一環で、沿線地域の皆様とともに、自然にやさしい道づくり<エコロード>を実現しようと開催したものです。

体験会では、事業用地内の育苗施設「飯島グリーンセンター」に、コナラやクヌギなど7種類、約1,200本の苗木を植樹。始めのうちは、慣れない作業に少し戸惑う子どもたちもいましたが、植え終わった後には、「意外と面白かった」「大きくなったところを早く見たい」など、笑顔で感想を話してくれました。今後も、このような活動の機会を作り、エコ体験の輪を広げていきます。



▲植樹の前に、まず地球温暖化の影響と自然の大切さについて考えました

はじめは、社員が植樹の仕方を手ほどき▼

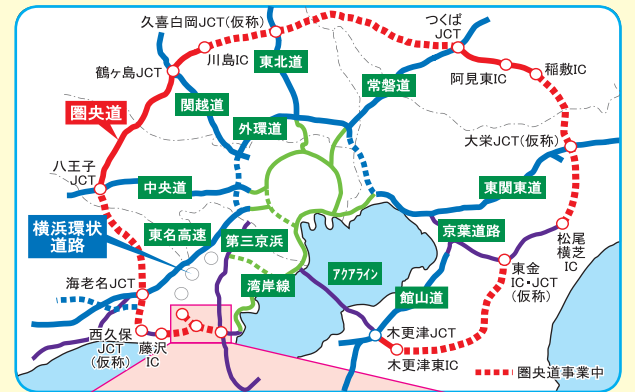


▲慣れてくると、自分たちだけでしっかり植えられるように

みんなの苗木を大切に育てて高速道路の緑化に役立てます

● 圏央道-横浜環状南線(よこかんみなみ)

横浜環状南線は、横浜横須賀道路釜利谷ジャンクションから国道1号を結ぶ、延長約8.9kmの自動車専用道路です。横浜環状道路の南側区間であるとともに、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の一部を構成しており、約7割がトンネル掘削構造となっています。



キリトリ
郵便はがき

2418790

料金受取人払郵便



この郵便物は平成22年3月31日まで有効期間とします。(切手不要)

神奈川県横浜市
旭区南本宿町21番地の1
東日本高速道路株式会社
関東支社 横浜工事事務所

「工務課」 行

住所(〒)

氏名 ふりがな 電話番号

職業 年齢 性別

歳 男 女

※住所・氏名などは差し支えない範囲でご記入ください。
※このアンケートは、事業に関する認知度の把握や意見の収集、本誌記事の作成、エコハイクの申込み受付に利用することを目的とします。また、個人を特定しない方法でデータ集計し、公表する場合がありますので、予めご了承ください。

